

西小倉地域の3小1中を統廃合し「小中一貫校」 基本コンセプトもないまま設計は拙速すぎる

松村市長は、9月定例会に西小倉の3小1中を統廃合して、西小倉中学校に小中一貫校を建設するための設計予算として2億8千万円の補正予算（債務負担）を提案しました。

党議員の「市長は記者会見で『地元の同意を得た』と発言し、地元から抗議の声が上がった。どのように認識しているのか」との追及に、教育部長は「協議会設立時から、開校場所は協議会での意見は踏まえるが、最終的には市が決定すると説明し、理解を得てきた。第4回協議会では、広い敷地を求める意見が多く、今後、市内部で開校場所を決めると報告し閉会した」と答弁。

協議会での意見は「広い敷地にして」

党議員は、「第3回協議会報告の『協議会だより』によると、『小中学生が同じ敷地内で活動するので広い敷地が望ましい』『敷地が狭いと部活や体育の授業が制限される』『西小倉小と西小倉中の2つの敷地を利用して開校して欲しい』『敷地を拡大してでも西小倉小学校で開校して欲しい』との意見が出された」とある。第4回協議会でも「広い敷地を求める意見が多く」との答弁だが、そうであれば、市長の『地元の同意を得た』と言うのは、事実と違う」と指摘しました。

「一貫校は開校時950人、グラウンドは現在の13,000㎡を確保」と答弁

党議員の「市長が記者会見で『現時点で敷

地の拡張はせず、第2グラウンドは考えていない』と発言しているが、学校規模、児童生徒数は何人、何学級を見込んでいるのか」との追及に、教育部長は「児童生徒数は950人、31学級、グラウンドは13,000㎡を見込んでいる」「西小倉小のグラウンドは雨水流出抑制施設である」と答弁。

建物の延床面積が2倍になるのに現在のグラウンド面積が本当に確保できるのか

党議員は、「開校予定の2026年度は、1年生だけだが、2年後には3年生までとなる。31学級とのことだが、現在の西小倉中学校は普通教室は19教室で、グラウンドが13,000㎡だが、普通教室が1.5倍、給食室をつくり、育成学級の教室、プールをつくったら校舎の延床面積も今より大きくなる。同じ敷地なら、当然、グラウンドは狭くなる。そうしたことについての説明もなく、設計をするのは乱暴だ」と厳しく追及しました。

設計予算削除の修正案を提出

党議員団は、一貫校の規模など基本コンセプトのないまま、設計に入るのではなく、十分地元の意見を聞いて、基本構想、基本設計、実施設計とすべきと予算の削除を求める修正案を提出しましたが、否決されたため補正予算に反対しました。



宮本繁夫議員

山崎恭一議員

坂本優子議員

渡辺俊三議員

山崎匡議員

大河直幸議員

徳永未来議員

日本共産党
宇治市議員団

2021年10月17日

宇治市宇治琵琶33

宇治市役所内

TEL : 0774-22-3141(内線2817)

FAX : 0774-24-7884



